

平成 28 年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

自然環境課

1 施設の概要等

施設名	野呂山公園施設		
所在地	呉市川尻町板休		
設置目的	すぐれた風景地である自然公園の利用の増進を図り、もって県民の保健、休養及び教化に資する。		
施設・設備	オートキャンプ場、公衆便所、休憩所、展望台、歩道、車道、駐車場施設等		
指定管理者	3期目	H26.4.1～H31.3.31	(一財)野呂山観光開発公社
	2期目	H21.4.1～H26.3.31	(一財)野呂山観光開発公社
	1期目	H18.4.1～H21.3.31	(財)野呂山観光開発公社

2 施設利用状況

利用状況	年度		目標値 [事業計画]	入場者数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	3期	29～30		5,600人	—	—
28		5,400人	6,154人	106人	754人(114.0%)	
27		5,320人	6,048人	944人	728人(113.7%)	
26		5,200人	5,104人	△878人	△96人(98.2%)	
25		5,000人	5,982人	176人	982人(119.6%)	
24		4,220人	5,806人	1,733人	1,586人(137.6%)	
23		4,300人	4,073人	△988人	△227人(94.7%)	
22		3,530人	5,061人	906人	1,531人(143.4%)	
2期	21		3,500人	4,155人	1,003人	655人(118.7%)
	1期平均 18～20		—	3,152人	528人	—
増減理由	17(導入前)		—	2,624人	—	—
	冬期の割引料金が利用者間に定着してきたのに加え、数年来のリピーターや、口コミによるキャンパー同士のネットワークにより新規利用者が増加し、目標を達成した。					

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	アンケートの実施	キャンプ場利用者(139人)
	【主な意見】	【その対応状況】
	団体の方のマナーが悪い	巡回増加・声かけの徹底

4 県の業務点検等の状況

項目		実績	備考
報告書	年度	○	事業報告書
	月報	○	月次業務実績報告書
	日報(必要随時)	—	緊急連絡を要する事例の発生なし
運営協議会(2回・現地)	【特記事項等】 ・指定管理者連絡会議 ・H28年度中間検査の実施 【指定管理者の意見】 ・施設等の修繕要望 【県の対応】 ・施設等修繕について現地協議 ・管理業務の履行状況を確認(→適正)		
現地調査(2月に実施)			

5 県委託料の状況

(単位：千円)

	年度		金額	対前年度増減		年度		金額	対前年度増減
	県委託料 (決算額)	3期	28	4,061		0	料金収入 (決算額)	3期	28
27			4,061	0	27	3,462			533
26			4,061	113	26	2,929			△448
2期		25	3,948	0	2期	25		3,377	28
		24	3,948	0		24		3,349	897
		23	3,948	0		23		2,452	△44
		22	3,948	0		22		2,496	351
		21	3,948	0		21		2,145	691
1期平均 18~20		3,948	△364	1期平均 18~20		1,454		103	
17(導入前)		4,312	—	17(導入前)		1,351		—	

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項目		H28 決算額	H27 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	4,061	4,061	0	
		料金収入	3,699	3,462	237	利用料金制(※1) キャンプ場利用者の増
		その他収入	5	6	△1	
		計(A)	7,765	7,529	236	
	支出	人件費	3,160	3,313	△153	臨時職員給与の減
		光熱水費	1,525	1,412	113	電気使用量の増
		設備等保守点検費	1,070	1,294	△224	汲取り回数減
		清掃・警備費等	239	175	64	
		施設維持修繕費	1,058	682	376	修繕箇所増
		事務局費	252	107	145	リーフレット刷新による増
その他		429	485	△56		
計(B)	7,733	7,468	265			
収支①(A-B)		32	61	△29		
自主事業 (※2)	収入(C)	—	—	—		
	支出(D)	—	—	—		
	収支②(C-D)	—	—	—		
合計収支(①+②)		32	61	△29		

※1 利用料金制：公の施設の使用料について、指定管理者が直接使用料等を収入することができる制度。
指定管理者の自主的な経営努力を発揮しやすくする効果が期待され、地方公共団体および指定管理者の会計事務の効率化が図られる。

※2 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画, 主な取組, 新たな取組など)	県の評価
施設の 効用 発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	スポーツ大会・登山・アウトドアアクティング・水中生物観察会を実施した。	施設の設置目的に沿った様々なイベントを企画し実施した。
	○業務の実施による, 県民サービスの向上	無料定期バスの運行を継続し, 県民サービスの向上を図った。	無料定期バスの運行等, 県民サービスの向上に努めている。
	○業務の実施による, 施設の利用促進	野呂高原ロッジと連携した宿泊プランを引き続き行った。ラジオやテレビで猪料理や各種プランをPRして、野呂山の情報発信に努めた。	隣接した施設と連携した取組や、ラジオやテレビ等での積極的な情報発信により、利用促進に努めている。
	○施設の維持管理	施設の清掃管理に努めた。特に各トイレは重点的に実施した。修繕に関しては県に相談しながら進めた。	清掃箇所を重点化する等、施設の管理を適正に実施し、修繕についても県と連携して行っている。
管理の 人的 物的 基礎	○組織体制の見直し	施設の垣根を超え、人材を流動的に配置しそれぞれの施設の管理運営を補完した。	施設を一体的に管理し、業務量の予測に基づく適切な職員配置により、業務の効率化と経費削減に努めている。
	○効率的な業務運営	簡易な修繕等は職員が対応した。また、予約状況によりシフトを変動させ経費削減に努めた。キャンプ場責任者を明確にし、利用者からの要望・苦情などの対応を一本化させた。	利用者からの要望、苦情について、窓口を明確にする等、利用者満足度の向上に努めている。
	○収支の適正	委託料の範囲内で適正な運営を行った。	内部努力により経費節減を行い、収支の適正化を図っている。
総括		野呂山全体が活性化するように、地域の方や近接する主要施設との連携を図り、様々なイベント・プランを企画・実施した。 今後とも、キャンプ場単独ではなく(様々な施設との連携を強化し)野呂山が複合施設であるという利点を基に利用促進を図っていく必要がある。	野呂高原ロッジと一体となった宿泊プランやイベント企画、地域との連携を継続し、利用促進に努め、施設全体の目標を達成することができた。 また、苦情窓口を一本化する等、利用者へのサービス向上に努めた。

8 今後の方向性(課題と対応)

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (平成 29 年度)	学校への営業を引続き実施する。野呂高原ロッジを利用している企業に対して、BBQ プランを提案し、キャンプ場の利用促進を図る。	施設の利用促進につながるように、企画提案や広報等の支援・協力をを行う。
中期的な対応	施設の損傷具合に差があり、効率的な改修が必要である。	施設の修繕については、状況を把握し、計画的に修繕を行う。